

く俳句く

夏の日

木々朗

参道や咲いて明るきサルスベリ
梅雨晴間陽は大川を彩色に
緑陰やベンチは常に人のゐて
豆かんに添えて色なるサクラランボ
日毎なる過ぎ行く速さソーダ水

文月 雑詠

細田 安治

七夕や 子らの願いは 短冊に
文月や 文書き上手と 文被^{ふみひら}月
織と彦 逢瀬つかの間 七夕で
この夏は マスクそのまま 息苦し
梅雨明けず 暑中見舞いは 何と書く
百日紅 猿も滑るぞ 夏の花



サルスベリ

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>